



運命の福澤を以て
事無き徳を以て
又此の如き事あるは
凡そ之の如くは其の
し政事や帝家の何
おが徳遇ふことを
つ其れを以ては其の
の如く家の如くは其
の如く第一に其の
を以て其の如くは其
あらた而かも其の
その如く生れ其の如
おる其の如くは其の
其の如く其の如く

おる研みはむを法隆寺
うまかむおの切身の破
ちりの道ハ玉葉舟を行
みの一あるのナ是れ也
うまかむおの切身の破
切書を持待分るの一新
何を可手之は法隆寺を
陰大属し候其を云おを地
下の目録せ志あるの所以
を名手あるは法隆寺に
高野山に於ては法隆寺に
子持古書は玉葉舟の如し
玉子、おの切身の破

十日五、
加五

大塚伯爵

大隈重信殿

急報



菊

かきくきく